

事業の効果

2020年3月末時点で、14カ所の処理区を統廃合しました。統廃合により処理場をポンプ場に改造するために掛かった工事費と、統廃合せずに引き続き処理場として機器を更新する場合の工事費を比較すると、2012年度から19年度までの8年間で約3億2千万円が削減できました。

また、委託料や電力料金など施設の維持管理費は、同8年間で約2億1千万円の削減となり、14カ所(2020年4月に統廃合した知見処理区を除く)の統廃合によって、約5億3千万円の経費が削減できました。

2017年4月に豊岡処理区へ統廃合した新田東部処理区の事例を紹介します。施設の工事費(インシヤルコスト)と維持管理費(ランニングコスト)を比較し、1年間当たりの差額を「削減効果額(注)」として計上しています。

○新田東部処理区の年間の削減効果額(2017年4月に統廃合)

(単位：万円/年)

	統廃合前(2015年)	統廃合後(2017年)	削減効果額
工事費 (インシヤルコスト)	1,009 ※1	240 ※1	△769
	統廃合せず機器を更新する場合 ・事業費 30,266 (内、1/2国庫補助)	統廃合に伴う改造工事を実施 ・事業費 13,856 (内、1/2国庫補助)	※1 事業費(国庫補助分除く)を耐用年数で割って算出
維持管理費 (ランニングコスト)	779	80	△699
	・委託料 427 ・電力料金 341 ・その他 11 ※2	・委託料 14 ・電力料金 53 ・その他 13 ※2	※2 その他は、水道代、通信費、法定検査手数料および薬剤代
合計	<u>1,788</u>	<u>320</u>	△1,468

約1/5に削減!

なお、2019年度の年間削減効果額は、約1億6千万円(14カ所分)となり、全ての統廃合が完了すれば、1年間当たり約5億3千万円(31カ所分)の削減効果があると見込んでいます。

(注)削減効果額の算出にあたり、統合を受ける処理場の経費増加分については、電力料金や薬剤代などがわずかに増えるだけであるため、考慮していません。

2020年度の予定

- ・三江東部処理区(豊岡) → 豊岡処理区へ
- ・神美北部処理区(豊岡) → 豊岡処理区へ
- ・八代処理区(日高) → 日高中央処理区へ
- ・平田処理区(但東) → 但東西処理区へ

「水道まつり」の中止について

5月11日に開催を予定していた今年の「水道まつり」は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して中止します。

《問合せ》水道課 ☎22-5377



▲昨年の水道まつりの様子

※掲載している情報は編集時点(4月13日)のもので、変更になっている場合がありますので、ご注意ください。

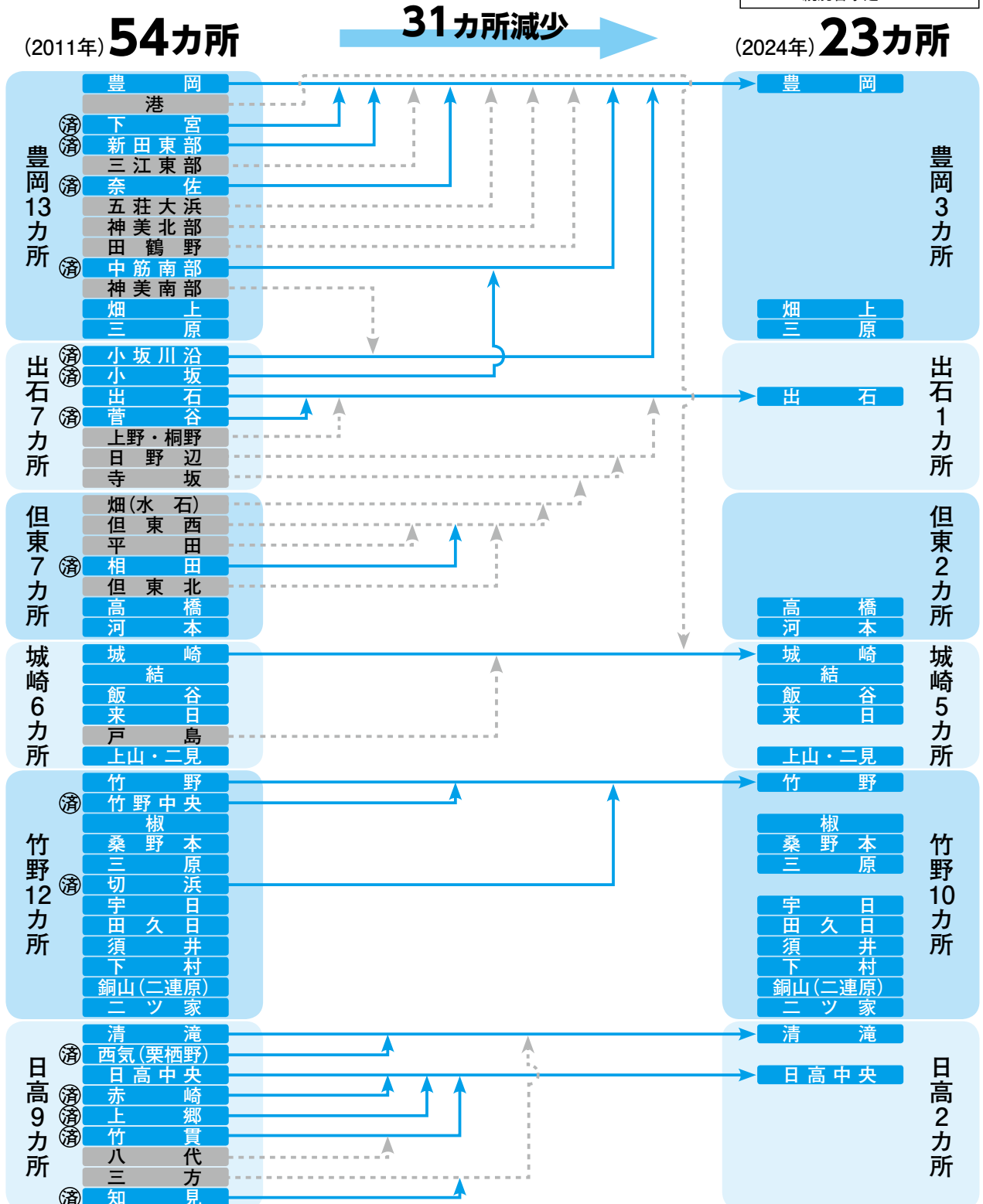
水たより

■水道課 ☎22-5377 FAX24-2985
 ■下水道課 ☎22-1801 FAX22-1803
 ■豊岡市水道お客さまセンター
 ☎22-5378 FAX22-5466
 水道メーターの検針、水道の開栓・閉栓、
 上下水道料金の請求・徴収

下水道処理区の統廃合事業を進めています!!

下水道事業では、将来の維持管理や更新に必要な経費を大幅に縮減するため、処理区の統廃合を進めています。経費の多くを占める下水処理場を隣接する下水処理場と統合し、廃止した下水処理場は、汚水の中継するポンプ場(汚水調整池)として活用します。

(凡例)
 —: 統廃合完了(2020.4現在)
 - - - : 統廃合予定



※掲載している情報は編集時点(4月13日)のもので、変更になっている場合がありますので、ご注意ください。